

令和8年度「連携校の教育資源活用」実施要項

1 目的

「インクルーシブな学校運営」の「基本的な考え方」に基づき、連携校の教育資源を相互に活用し、生徒に多様な「交流及び共同学習」の機会を提供するとともに、教職員の共同研修や情報交換等を促進する。

2 事業の内容

(1) 多様な「交流及び共同学習」の提供

各教科等の学習内容や活動の特性を生かした対面やオンラインによる直接的な「交流及び共同学習」や、映像や作品の交換、ICTを活用したコミュニケーションなどの間接的な「交流及び共同学習」を促進する。

(2) 共同研修や情報交換等の促進

教育指導に必要な教材・教具、分掌事務の遂行に参考となる資料の他、授業参観、校内研修参加、授業体験、教材研究、外部講師やST等による人材活用を促進する。

3 対象校

北海道中札内高等養護学校、北海道更別農業高等学校（互いに連携校と言う。）

4 事業の実施方法

(1) 中高養「交流及び共同学習」委員会と更農SAS委員会（以下、両校委員会）は、学期ごとに「2 事業の内容」に関する校内の要望を別記様式により集約する。

(2) 両校委員会は、連携校から示された要望の実現に努めるとともに、必要に応じ代替案を提供する。

(3) 実現が可能な教育活動等について、中高養カリキュラム・マネージャーと更農Coが両校の担当者間の連絡調整に当たる。

(4) 年度当初に、「受入可能な授業等」を取りまとめ連携校に情報提供するとともに、年間を通して随時更新する。

5 要望及び「受け入れ可能な授業等」の把握

(1) カリキュラム・マネージャー及び更農Coが行う。

(2) 学年主任、分掌部長、教科代表、学科長が各部署の要望を取りまとめる。

6 その他

(1) 年度末に両校委員会合同による意見交換会を行い、当該年度の成果や課題、次年度の実施方針を共有する。

連携校への要望

学科・学年・分掌等	時期	活用したい連携校の教育資源と活用方法
		交流及び共同学習 教育資源活用 人材活用 (いずれかに○)
		交流及び共同学習 教育資源活用 人材活用 (いずれかに○)
		交流及び共同学習 教育資源活用 人材活用 (いずれかに○)

受け入れ可能な授業等

学科・学年・分掌等	時期	受け入れ可能な授業等の学習内容、人数、留意点など